「職業生活」学習指導案

指導者　　西　　勉　（T１）　小田原　舞（T２）

日　時　平成24年12月１日（土）　　第２校時（11:05～11:55）
年　組　中学校全学年３組　情報・サービス　グループ７名　（１年生２名，２年生２名，３年生３名）
場　所　中学校第３学年３組教室
単　元　「私たちの東雲コーポレーション」　～会場準備～

単元について

平成22年度文部科学省「特別支援教育資料」によると，この10年間で特別支援学校の在籍者数は約1.5倍になったが，特別支援学校高等部卒業生の就職率の上昇はあまり見られない状況が続いている。特別支援学校（知的障害）高等部卒業者の職業別就職者数は，国立特別支援教育総合研究所（URL　http://www.nise.go.jp/cms/13,898,45,180.html 2012.11.3）によると，「昭和62年には全体の62%を「製造・製作」が占めていましたが，平成19年には36%となり，それに代わって「サービス」「販売」「専門・技術」「事務」「運輸・通信」「採掘・建設・労務」などの業種が増えてきており，職種の多様化が見られます。」とある。このことから従来のものづくりを中心とした職種から，サービスなどを提供していく職種へと，就労の形にも変化が見られる。生徒の将来を考え自立と社会参加に向けた力を育成していくためにも，早い段階から準備をしていく必要があると考え，本校では平成24年度より「職業生活」を創設した。この「職業生活」では生産のための技能をつけていくのを目的にするのではなく，働くことへの意欲や自ら働きたいという気持ちを育てていく事をめざしている。職業生活の時間は，週一回２時間目から６時間目までの５時間連続の授業としておこなっている。授業を「東雲コーポレーション」という会社に見たて，生徒たちは会社の一員として授業に参加している。全学年３組（特別支援学級）生徒を各７名に編成した３グループ（担当部署）で会社組織をイメージして取り組んでいる。作業種別は「クラフト」・「食品加工」・「情報・サービス」の３つとし，それぞれが学期ごとにローテーションしながら，１年間で全ての業種を経験できるようにしている。「情報・サービス」グループでは，毎週連続５時間のうち午前中に２時間の計画で，情報事務の学習を行っている。パソコンを使用して，試食会・販売会・見学会等のチラシ作りやアンケート等の作成および集約，データ処理等を中心にした学習を行っている。午後の２時間はビルクリーニングおよび学校環境を整える活動を中心として行っている。このビルクリーニングの学習は，時間内に作業を完結できるため生徒は結果を振り返ることができ，自己評価を次回の活動につなげることができる業種である。作業内容は機械などを使わずに，中学校段階で実施可能な作業として，手作業の取り組みを中心にして行っている。具体的には，自在ほうきでのフロアー清掃，テーブル拭きなどである。ここでは基本的なビルクリーニングとして，道具の取り扱いの練習から始まり，慣れてきたところからフロアーの清掃へと移行していった。また本校の特別支援学級では，１年時から段階的に広島大学キャンパスを利用した職場体験学習を行っている。大学の協力を得て実際の仕事として体験することができ，大学で実際に働いている障害を持つスタッフの方に，清掃作業の指導を受ける機会もあるため，働くということの具体的なイメージにつなげていくことができている。

本単元「私たちの東雲コーポレーション」　～会場準備～では，「見学会・説明会」のための会場づくりを企画している。その準備を生徒らの運営により行なっていき，学校外から多くの見学者を迎え入れることを想定し準備を進めていくものである。

卒業後は特別支援学校の高等部に進学する生徒が多いため，将来の具体的なイメージができていない生徒もいるが，どの生徒も働く事を意識しており仕事に対して前向に取り組む姿が見られる。実態としては，指示の内容の理解はできていても，うまく動作につながらない生徒や，繰り返しの指導を行うことで作業の定着を図ることができる生徒，なかなか自分の気持ちが表に出せない，自信が持てずに緊張してしまい，上手くほうきの操作ができない生徒，言葉掛けによって集中を持続することができるなど，実態も様々であるが，基本的な練習を繰り返しおこなっても，嫌がることもなく積極的に取り組むことができている。

今回は，「東雲コーポレーション」の一員として活動を意識させながら，個別に課せられた役割に責任を持って行うこと，清掃場所に応じた活動や仲間と協力して働くこと，作業を丁寧に行うなどの力を育成していくことを目指して行っている。清掃活動は日常の学校生活でも行っているため，その延長として捉えてしまいがちであるが，この職業生活の中で行う清掃はビルクリーニング作業であり，「そこを利用する人たちが，気持ちよく過ごせる環境にする仕事」としての意識をもつことを目指している。指導にあたっては，広島県特別支援学校職業技能検定での作業手順を基本とした「ほうき」，「雑巾」，などの基本的な扱い方を定められた手順に従って練習している。

また，グループでの活動や，評価活動を取り入れていくことで，お互いを信頼し働くことに意欲と関心を持つことができ，その経験を繰り返していくことで，自己肯定感を高めていくことが可能であると考える。

指導目標

1．清掃・環境整備業務の意識や役割を理解し活動できるようにする。
2．仲間と協力し,役割と責任を持って活動できるようにする。
3．活動に見通しを持ち，目的に沿って最後までやり抜くことができるようにする。

指導計画（全４時間）

1．清掃業務の意義と役割，用具の確認・・・・・・・・・・・・・・・1時間
2．会場準備設営計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
3．会場準備　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間　　（本時）
4．反省会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

本時の目標

自分の役割に責任を持ち，仲間と協力して活動することができる。

生徒	実　態	目標行動
A	指示は理解できるが,一つのことに集中することが難しい。	手順を確認しながら清掃することができる。確認報告も行うことができる。
B	注意が散漫であり，説明の聞き取り・理解が難しい。長い説明は伝わりにくい。	指示された内容を理解し，落ち着いて作業することができる。
C	指示の理解はできているが,行動に移るのに時間がかかり,取り組みに時間がかかる。	時間を意識し，活動計画表にそって，作業に取り組むことができる。
D	気分にむらがある。作業をともなう学習はやや苦手であり,自分の思い込みで行動してしまうことがある。	指示や手順を意識し，継続して活動に取り組むことができる。
E	決められたことは指示通りに取り組もうとする。自分から進んで自信を持って活動に取り組むことが少ない。	活動内容を理解して，自信をもってひとつひとつの動作を行うことができる。
F	不器用な面もあるが，何事も積極的に取り組む。指示をよく理解して適切な行動を選択することができる。	手順を確認しながら清掃を行い，作業について確認報告も行うことができる。
G	指示の理解が曖昧なところがある。 ひとつひとつの作業に確認が必要な事がある。	指示された作業内容にそって行動できる。

「学びのつながり」の視点

小学校段階から中学校段階において基本的自尊感情から社会的自尊感情の育成へと比重を変えながら，２つの自尊感情を育てていく事が重要である。このことから中学校段階においては，他者からの評価を受ける場面を学習活動の中に設定することによって社会的自尊感情を育むことを取り入れ，生徒が自信を持って次の活動に挑もうとする態度・意欲につなげていき自己肯定感を高めていく。

準備物

清掃道具　　自在ほうき　文化ちりとり　バケツ　タオル　ぞうきん（机用・窓）　モップ
自己評価カード

学習展開

<table>
<tr><th colspan="4">学習活動（□）と支援●（T１・T2）</th><th>指導上の留意点
（◆評価）</th></tr>
<tr><td colspan="4">１　活動内容と役割・目標を確認する。(10 分)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">□集合. あいさつをする。

□活動内容を確認する。
□目標を確認する。

□個人目標を記入する。
□本時の個人目標を確認する。

●目標・活動内容を声に出すように促す。
●しっかりと聞けるように言葉かけをする。
●具体的な目標になるように言葉かけをする。</td><td>○正しい姿勢で挨拶できたか

○前時の記録を用いながら，自分の目標を確認するよう指導する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">２　グループに別れ会場準備を行う。(30 分)</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">□作業手順の発表・確認
・グループごとに集合し手順の確認
□指示書を見て作業に入る
□ビルクリーニング作業
・資機材準備
□看板設置
①机移動
②自在ほうき
③塵取り
④机移動
・資機材片づけ/準備
⑤机拭き/会場設置
□片づけ</td><td>A・ F</td><td>C・E</td><td>B・D・G</td><td rowspan="2">生徒
A・B・C――１班
D・E・F・G-２班

１班をＴ１　担当
２班をＴ２　担当

○スムーズに活動できるように最小限の言葉かけを行う。</td></tr>
<tr><td>・指示書を受けとる。
・手順をメンバーに伝える
・チェックリストで確認する
●わからないときは，担当教員に質問するように促す。</td><td>・チェックリストで確認する

●わからない時はリーダーに確認するように促す。</td><td>●注意を向けるように意識させる

●難しい場合は手順を教員と一緒に確認する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">３．振り返り　　(10 分)</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">□目標に対しての評価を行い日誌に記入する。
□みんなの前で自己評価カードをつかい発表する。仲間のよかったところを発表する。
●自分の取り組みに自信が持てるように発表後，称賛の言葉かけを行う。
□あいさつをする。</td><td>◆役割に責任を持ち仲間と協力することが出来たか。
○正しい姿勢で挨拶するよう指導する。</td></tr>
</table>

参考文献

近藤　卓（2010）自尊感情と共有体験の心理学　理論・測定・実践，金子書房.

文部科学省初等中等局特別支援教育課（2012）特別支援教育資料.

梅永 雄二(2010)発達障害の人の就労支援ハンドブック―自閉症スペクトラムを中心に―, 金剛版.

全国特別支援学校知的障害教育校長会・キャリアトレーニング編集委員会（2008）トレーニング事例集Ⅰ．卒業後の社会参加・自立を目指したキャリア教育の充実　ビルクリーニング編，ジアース教育出版社.